

第2部

トレック後半はこのコース随一の眺望を持つ幕営地プユパタマルカ(3600m)からマチュピチュ遺跡へ、そして遺跡の見学。正面にペロニカ山(5682m)、眼下にマチュピチュ山やウイナピチュ山を望むウルバンバ溪谷、振り返れば聖山サルカントアイ山(6271m)、遠くプーマシージョ山も遠望できる絶景の地プユパタマルカを後に、一路マチュピチュ遺跡へ向けて急坂を下りました。翌日は丸一日たっぷり時間をかけてマチュピチュ遺跡を見学後、17:00時発の列車ビスタドームでクスコへ戻りました。



(午後のマチュピチュ遺跡 5/18日)

○マチュピチュ遺跡へ(4日目)

自然は驚くようなドラマが起こります。明け方まで時に強く雨が降り、様子を見ようとテントから顔を出せば目の前にリヤマが。ア・リヤマーなどとダジャレも出ない濃い霧雨にガックリ、ただ何時もと違い少し風が。山屋の経験から「風は天候変化の兆候」などと淡い期待を抱いていると日の出少し前から濃霧が動き、マチュピチュの聖山サルカントアイ山が姿を現しました。これぞ一発逆転の満塁ホームラン。今日は雨具を付けず階段状の急坂を軽快に下りウイニャウイナへ。そこからマチュピチュ山の中腹をトラバース気味に進むこと約1時間半でマチュピチュ遺跡を眼下に望む太陽の門(インティブンク)に到着しました。



(聖山サルカントアイ 5/17日)



(ペロニカ連邦 5/17 日)



○マチュピチュ遺跡見学

雨季から乾季に変わった様な清々しい朝を迎え、今日はマチュピチュ遺跡巡りと正面のワイナピチュ山(2750m)登頂日。この山の登頂は8時~8時半発に予約され、以前の様な朝一番のバスで順番取りをする必要は有りません。ゆっくりジグザグを繰り返し、急な一方通行を攀じ登り、最後に狭いトンネルを抜けると頂上へ。頂上からは自身9度の登頂にして初めてサルカントイ山を見ることが出来ました。下山後はコンドルの神殿、太陽の神殿などを見学、サンクチュアリーロッジで昼食を取り再び日時計などを見学、最後に見張り小屋を通して遺跡を後にしました。



(ワイナピチュ山下山 5/18 日)



(正午のマチュピチュ遺跡 5/18 日)

○ナスカの地上絵

最終日はペルーの首都リマから車で砂漠状の太平洋岸を南下しピスコへ。ここから双発の飛行機でナスカ地上絵の遊覧飛行へ出かけました。残念ながら筆者は座席(コスト)の関係で 1 時間半ほど空港待機。よって今年も地上絵の写真は有りません。

次の天溪ツアーは6/18日 及び6/26日 発「花のスイス・アルプスハイキング9日間」、北米に移り 7/7日 発「花のカナディアンロッキー9日間」、そして再び欧州へ戻り 7/16日 発「夏のアルプス・オートルート11日間」と続きます。